

【高等学校用】

令和2年度学校評価計画

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

学校名	佐賀県立佐賀農業高等学校
-----	--------------

1 前年度 評価結果の概要	<p>・多くの生徒が志(夢や目標)を設定して学校生活を送ることができており、引き続き指導に力を入れていきたい。・学びの時間等により基礎学力や一般常識の定着はかなりできてきているが、家庭での学習習慣の定着を図りたい。・各科のそれぞれの専門性を活かした取り組みができており、引き続き発展・充実をさせるとともに、情報発信にも力を入れたい。・SGHの研究指定が4年を経過したが、最終年度には、研究の総括と終了後(R3以降)のグローバル教育を継承する体制作りが必要である。・中学校生徒数の減少に対する生徒募集は引き続き課題であり、学校の魅力発信やPRに力を入れていきたい。・多くの生徒が「思いやり」や「やさしさ」、「いじめを絶対許さない」という意識を持って学校生活を送ることができているが、「いじめ」の事案が多数発生しており、早期発見・早期対応に努めるとともに、相談しやすい環境作りを力を入れたい。</p>
------------------	--

2 学校教育目標	<p>教育理念:「農は国の基」 校訓:「質実剛健、明浄真正」 スローガン:「チャレンジ!佐農生~夢を実現するために~」 教育目標:「農業の専門教育を柱とし、様々な教育活動を通して、地域や社会に貢献できる有為な人材を育成する。」</p>
----------	--

3 本年度の重点目標	(1) SGH研究の推進と継承 (2) 学校情報の発信 (3) 専門教育の充実
------------	---

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価	主な担当者
---------------	------	--------	-------

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
重点取組	取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○学習習慣を身に付け、基礎学力の定着を図る。	○生徒の基礎学力を把握し、指導に活用する。 ○ブチテストの不合格者をゼロにする。 ○家庭学習を毎日1時間以上する生徒60%以上。	・基礎学力診断テストの実施。 ・朝の「学びの時間」の実施。 ・ブチテストの実施。 ・家庭学習の奨励。							
	○ICTを効果的に活用し学力の定着を図る。	○ICTを使った授業を5回以上行った職員100%。 ○ICTを使った授業により教科の興味関心が高まった生徒80%以上。	・ICTを活用した授業公開週間等を実施。 ・職員研修の実施							
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動。	○奉仕活動や専門教育を通して他者への「思いやり」「やさしさ」を身に付けることができた生徒80%以上。	・全校ボランティア活動の実施。 ・専門性を活かした地域との連携事業の実施。							
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実。	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対応等)について組織的対応ができていると回答した教員90%以上。	・いじめの認知・覚知に対する対応マニュアルを作成・見直しを行う。 ・いじめの対応についての研修・会議を年間に3回以上行う。							
	○ふるさと佐賀への思いを醸成するための教育活動。	○「佐賀県に誇りや愛着を感じる・どちらかというと感じる」と回答した生徒90%以上。	・各地域の郷土学習資料や「佐賀語り」等を活用した授業に取り組む。 ・連携事業やフィールドワークの実施。							
●健康・体づくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成。	●「健康に食事は大切である」と考える生徒90%以上。 ○毎日朝食をとって登校する生徒80%以上。	・生活状況調査、食に関する意識調査の実施。 ・保健だよりの発行。 ・生徒保健委員等による啓発活動。							
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減。	●教育委員会規則に掲げる時間外勤務等時間の上限を遵守する。(1月45時間、1年360時間)	・定時退勤日の設定(水曜日) ・学校閉庁日の設定 ・部活動休養日の設定 ・在校時間の最終時刻の設定(19:30) ・業務改善の工夫							
	○年次休暇取得の促進。	○年間12日以上(月1日以上)の年休取得、60%以上。	・年休取得予約表の活用。 ・年休を取得しやすい職場づくり。							

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
重点取組	取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○SGH研究の推進と継承	○SGH研究をさらに推進させ、成果をまとめるとともに、次年度以降への継承を図る。	○SGH活動を通して、グローバルな視点が身についた(視野が広がった)という生徒70%以上。 ○5年間の研究指定の成果を検証し、まとめる。	・生徒協働型教育プログラムの開発 ・教科分業型教育プログラムの開発 ・ICTを活用した主体的・協働的学習支援プログラムの開発。 ・R3以降のグローバル教育継承のための組織作り。							
○専門教育の充実	○地域資源を活用した農業3科の特徴ある取り組みの実践と地域連携・地域貢献を推進する。	○地域や関係機関との連携事業を各科とも年間3回以上実施する。 ○所属学科の専門学習へ興味関心をもって取り組んでいる生徒90%以上。	・地域や関係機関との連携事業の実施。 ・地域に根ざすとともに、時代の変化に対応した農業教育を見直す。							
○学校情報の発信	○学校情報を適宜発信し、学校の魅力をPRすることで、学校活性化や生徒募集に繋げる。	○学校情報を適宜発信し、学校の魅力の発信が充分にできているという職員90%以上。 ○入試の志願倍率で、各科1.0倍以上、全体で1.2倍以上を目指す。	・「佐農だより」を月1回発行し、関係機関や保護者へ配布する。 ・学校HPを充実させ、適宜を更新する。 ・学校PRポスターを更新し、関係中学校に掲示する。 ・学校紹介プレゼンを更新する。							

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	・ ・ ・
----------------	-------------